

## ダンスの変遷史 (二)

### 五、大正デモクラシーとダンス

第一次世界大戦前後には、世界各国に民主主義が波及し、教育界にも影響を与え、我国でも新教育運動がおこった。成蹊実務学校、成城小学校、千葉師範付属小学校、奈良女子高等師範学校付属小学校などで、自発的思考や活動、創造性を尊重した実践的研究が活発に行なわれた。

体育の中でも、体操中化の姿勢に変わりはなかったが、スポーツや遊戯にこれらの点が強調され、特にダンスは、音楽や絵画とともに新分野を開拓した。

### 興水はる海

#### (1) 童謡運動と童謡遊戯

音楽教育の場では、小松耕輔、梁田貞、葛原しげるらによる「大正幼年唱歌」(大正四年―七年、全十二集)が刊行され、これを契機として唱歌と児童音楽の革新的機運が高まり、童謡運動がおこった。鈴木三重吉を中心に「赤い鳥」(大正七年創刊)が出版され、北原白秋、小川未明、島崎藤村らが協力して、新教育の求める表現性、創造性、個性を育てる教育を推進しようとした。この「赤い鳥」に多くの童謡が発表され、日本の子どもの生活感情と密着しているこれらの童謡に踊りをつけた童謡遊戯が、数多く生まれた。

## (2) 唱歌遊戯・行進遊戯の発展

土山五郎、高橋キヤウ、三浦ヒロ、戸倉ハルらによって、唱歌遊戯、行進遊戯の研究が大いに進み、講習会が広く行なわれた。

多くの書物が出版され、加藤正雄、岡本きいち、初山滋、鳩谷昇らの絵がこれを彩った。書名としては、「唱歌遊戯」「行進遊戯」

「表情遊戯」「表現舞踊」「律動遊戯」「童謡舞踊」「体育ダンス」

「学校舞踊」「説話遊戯」「音楽遊戯」などがあった。著者は、土

川五郎、水谷しきを、砂本靖二、荒木直範、白井規矩郎、赤間雅彦、波井二夫、小瀬峰洋、小西美良、戸倉ハル、高橋キヤウ、印

牧季雄、三浦ヒロ、下間芳克、高橋堯、美濃部ゆたか、升之一

人、石井小浪、長田博、島田豊らであった。

土川五郎は麴町小学校長として律動遊戯、律動的表情遊戯の研究を進めた。表情遊戯は、①表情は感じという事に重きを置くべきこと。②歌に付してある音楽と表現形式との調和を考えねばならぬこと。として、当時の幼稚園の表情遊戯を「歌詞にとらわれて、その歌詞の通りに舟を作ったり山をこしらえたりして、何でも一つ余す所なく表わそうとして、感じということが少しも顧慮されていない。」と批判している。

律動遊戯は、音楽の気分、リズムによって、児童を基とした動

くもので、歌詞によらないものであり、生理と心理の上に一致して、而も、美学上にも十分に注意を払ったものであるとしている。

この様に表情遊戯、律動遊戯を定義づけ、「表現は児童を中心として世界共通の上に国民性の表れを織込んだものである」と結んでいる。

童謡遊戯と唱歌遊戯の関係について、戸倉ハルは、

「……『唱歌遊戯』といたしました。世間でいう『童謡遊戯』もこの中に含まれています」と童謡遊戯を位置づけている。一方、土川五郎は、これを表情遊戯と呼んでいる。

特にここで取りあげたいのは「自由表現」についてである。「系統的保育案の実際」(昭和十五年)によれば、年少組の初期より唱歌遊戯の中に自由表現が組み込まれており、それ以外にも、自由表現させる方向をとっているものがある。これは幼児の個の開発をめざして行われたもので、「誘導保育」等とも深い係りを持つものである。二、三の例を挙げると、

●ひよこ(福井直秋曲、戸倉ハル振)

準備 円形を作り、内方を向き、手をつないで円の内を籠の中とする。円の中に数人がひよこになって入る。ひよこは各々自由にひよこの表現をする。そして、適宜周囲の者と交代する。(名自

が自分で指名して交代する)

一、ヒヨヒヨヒヨコ カハイイヒヨコ

二、ピヨピヨヒヨコ ナイテハアソブ

三、ヒヨヒヨヒヨコ カワイイヒヨコ

●鳩ポッポ 自由表現 曲は適当なのを選ぶ

「みんな可愛い鳩ポッポになりましょう。」と先生も一緒になって、みんなに鳩ポッポの様子をさせる。

「さあさあ豆を撒きますよ。ほーら食べにいらっしやい。沢山召し上げ。」

「もう日が暮れますから、早くおうちに帰りましょう。」と先生が招く方へ。急いで羽をひろげて飛んで行く。

「夜になりました。みんなおねんねしましょう。」

と云ふ様にして導びくと、子供たちは本当の鳩ポッポになり切つて、めいめいが可愛い表現をする。

●飛行機

お互にプロペラー(両手)がふれ合うと飛行機が墜落すること話を話し、墜落しない様に上手に舵をとる様にすると一層面白い。

手のふれた者は円の中央に出て来て、座って拍手していること。

これらは土川五郎の「遊戯は行う者が楽しくて止められないものでなくてはならない」の精神を貫いたもので、ダンス教育の場

での大きな前進であり、第二次世界大戦後の新教育の基礎になっているものである。しかも、幼児や小学校低学年において最も研究が進んだ事と、実践的研究である事の価値は大だ。

### (3) 改正学校体操教授要目にみる唱歌遊戯・行進遊戯

大正十五年五月二十七日、改正学校体操教授要目が公布された。

唱歌遊戯の目的を生徒・児童の自然の活動性に適応して、唱歌に伴う表現的動作に依り、全身の発育と健康とを助長し、快活な精神を養うこととしている。行進遊戯の目的を、①調律的な各種の優美な行進に慣れさせ、且各種の隊形に於ける団体的行動に習熟せしめつつ、全身の健康を増進し、同時に快活・規律及び協同を養うことと、②調律的で円滑・軽快な全身動作によって、快活・温雅な精神と端正・優美な姿勢とを養い、以て心身の円滑な調和的発達をはかり、身体を強健ならしめるものであるとしている。

歩行練習が新に加えられ、①各種の歩行・動作の組み合わせの練習。②音楽をきいて、感じたままを歩行動作に表現。の二方法が示されている。自立性を尊重し、自発的に行わせるよう、また技術の末に拘泥してその活動を制限しないよう心がけると示されて

いる。

## 六、外国のダンス・体操界の動き

デルサルト (François Delsarte, 1811~1871) はフランスの声楽及演劇の教師であった。デルサルト体操は内的な感情と外的な動作とを関係づけようとしたもので、優美な落着きと解緊を特徴としていた。米国で注目され、特に一八九〇年代女子のカレッジで関心を集めた。我国では、フェリス女学校、日本女子大学校で明治から採用された。

ギルバート (Melvin Ballou Gilbert, 1847~1910) は、エセテックダンスをハーバードの夏期講習会や、ボストン体操師範学校で指導した。これは、内的感情の表現と、均斉のとれた身体の修練を目的としている。ギルバートの教えを受けた井口阿くりは、「ファウスト」「ポルカセリーズ」の二作品を我国に伝えた。このダンスは、明治・大正・昭和へと踊り継がれた。

ダンカン (Isadora Duncan, 1878~1927) はアメリカ生まれのオランダ人である。古典バレエの技巧的な世界を嫌って、靴を脱ぎ素足となって、ギリシア実衣の様なうすものを着けて踊った。自然主義に徹し、主として古代ギリシアの絵画や彫刻の中に、自然

な動きの形式を求めた。踊りは印象主義的であり、即興的であった。ベルリンにおいて初めて認められて以来、ヨーロッパの主要都市を巡って人々を酔わせた。「新舞踊の母」と言われ、その後の舞踊運動に影響を与えている。

パウロヴァ (Anna Pavlova, 1822~1931) はロシアのベテルスブルグに生まれた。古典バレエ最後の人と言われている彼女は、洗練された技巧で古典芸術の精髓を踊った。大正十一年に来日し、「瀨死の白鳥」「蜻蛉」等の踊りで日本人のバレエの関心を高めた。

ダルクローズ (Jaques Dalcroze, 1865~1950) はウィーンに生まれたスイス人で、耳のみに頼ろうとする音楽教育法は、極めて不完全であると考え、音楽を聞いて直ちに肉体的に反応する様な練習法を工夫し、リトミックを創案した。彼の理論と方法は、時代の要求に合致して、音楽及び舞踊教育の上に大きな影響を与えた。岩村和雄、小林宗作らが彼に学び、現在に至るまで影響が続いている。

ボーデ (Rudolf Bode, 1881~1970) はダルクローズの弟子であり音楽家であった。表現体操の創始者であり、運動法則によって緊張解緊、運動と振動の全体性について、一つの運動体系にまとめた。昭和初期の緊張・解緊の運動の導入など、我国の体操・

ダンス界には、ポーデへの志向が見られる。

ラバン (Rudolf von Laban, 1879~1958) はモダン・ダンスの人で、舞踊を理論的に且系統だてた。第二次世界大戦中ナチスに追われ、イギリスにおいて、教育舞踊のシステムを確立した。舞踊記録法としての舞踊譜も、彼の功績の一つである。

ウィグマン (Mary Wigman, 1886~1973) は、ダルクローズやヴィゼンタールの舞踊に魅せられて舞踊界に入った。ラバンの学校に学び強い影響を受けた。無音楽舞踊「巫女の踊」をはじめ、「トーテンマル」ほか、内的経験とその強烈な表現が、米国のモダン・ダンスに影響を与えた。

以上の外国のダンス・体操界の動きは、他国で学んで帰国した伊沢エイ、高橋キヤウ、三浦ヒロらによって、我国の教育の場にも及び、文献による研究も進んだ。

大谷武一は、「新しい体操への道」の中で、諸外国の動向を示し、「女子体育の方法としては、表現体操と舞踊とが最も適合している。」と述べていることは注目に値する。

同じ頃、石井漢、小森敏、高田雅夫らの専門舞踊家が輩出し、新舞踊熱が高まった。

## 七、学校体操教授要目

昭和十一年六月に公布された学校体操教授要目は、従前に比して形式内容共に、最も充実したものであり、唱歌遊戯・行進遊戯には、新たに基本歩行・基本態勢・応用態勢を示した。

指導上の注意によると、①基本練習を重視することにより、運動並に技術的效果を狙う。②模倣注入を避け、生徒、児童の自発活動を重んずる。とし、従来の唱歌遊戯・行進遊戯が模倣注入主義であったことを指適し、開発的な指導例を掲げている。

## 八、戦時下のダンス

第二次世界大戦中のダンスは、名称を音楽遊戯に統一し、体練的效果を目標にしている。低学年では、自然的な遊戯として一連のものを掲げ、高学年では、基本歩法、基本姿勢のみに止めている。

基本歩法の名称も、従来のランニングステップは足尖歩、ワルツは三拍子等となり、「ヒノマル」「機械」などの題材が挙げられている。

吉田清教授は、「従来のスポーツはその影をひそめ、ダンス形態の運動は、女子といえども一切禁止の憂き目に会うような状態になった。この中に在って、戸倉女史は、ただ独り、学校ダンス存続に奮闘、必死の力で漸く、その余喘を保つだけに支えたことは、想い出深いことである」と回想している。

## 九、ダンスの新時代

第二次世界大戦終結と同時に、ダンスの方向は大きく揺れ動いた。明治以来、教師中心で、既成の作品を習熟することに主眼を置いていたものが、創造性を開発することを目的とした、創作ダンスへと転換した。昭和二十二年の学校体育指導要綱以来、創作ダンスは既に三十年を経ている。戦後のダンスは、徐々に着実に、自らの魂を表現するものとして育っている。

## むすび

明治初期の豊田英雄らの熱意、大正期から昭和初期にかけての自由表現のための研究、そして現在の創作的取扱いと個の開発。倉橋惣三は、「各の幼稚園は環境を異にし、形態を異にしている。

如何なる保育案と雖も、いづれもの幼稚園にそのまま適用せうるべきことはあり得ない。」と言う。個の創造性開発の為に、更に飛躍する事ができるであろう対象の診断を繰り返しながら、指導を行なう事と、底辺拡大を狙った「やさしい指導法」を研究開発する事が望まれる。

(お茶の水女子大学)

### 参考資料

- 1 高橋キヤウ「唱歌遊戯」右文館 昭和2
- 2 戸倉ハル「唱歌遊戯」目黒書店 昭和2
- 3 高橋キヤウ「行進遊戯」右文館 昭和4
- 4 大谷武一「新しい体操への道」目黒書店 昭和5
- 5 三浦ヒロ「行進遊戯材料とその指導法」目黒書店 昭和7
- 6 体操研究所「学校体操解説」右文館 昭和8
- 7 土川五郎「大正幼年唱歌 表情遊戯 上巻」目黒書店 昭和9
- 8 女子体育振興会「小学校体操科解説、尋常科第一・二学年用」昭和12
- 9 石井漢「世界舞踊芸術史」玉川学園出版部 昭和18
- 10 園部三郎「音楽五十年」時事通信社 昭和25
- 11 園部三郎・山住正己「日本の子どもの歌」岩波書店 1962
- 12 ヴァン・ダーレン他、加藤橋夫訳「体育の世界史」ベースボールマガジン社 昭和39
- 13 日本体育学会「日本体育学会第27回大会号」p. 81 1976